

大 学 史 研 究 通 信

第 101 号 2021 年 1 月 31 日 (日)

大学史研究会

第 101 号の内容：会員情報・新入会員 自己紹介・会員新刊ニュース・2020 年度大学史研究セミナー報告・セミナー参加記・2020 年度総会報告・2020 年度会計報告・『大学史研究』編集委員会からのお知らせ・運営委員会からののお知らせ・編集後記・研究会運営委員／事務局員一覧

会 員 情 報

新入会員

原田 健太郎 会員

所属：島根大学 教育・学生支援機構

山本 信太郎 会員

所属：神奈川大学 国際日本学部国際文化交流学科

新入機関会員

立教学院史資料センター

新入会員 自己紹介

原田 健太郎 会員

このたび入会しました原田健太郎と申します。専門は高等教育研究ということで、これまで大学を対象にした研究を色々行ってきました。最近、国文学（日本文学）が大学という制度に組み込まれる過程を明らかにする研究を始めました。日本に大学が生み出された時、大学の学問とは、国家の役に立つものであり、西洋学問の受容であったと言われます。その中で、日本固有の学問が大学の中にどのように受け入れられ、そこで期待された役割は何か、大学拡大を経て、その役割がどのように変わったのかを明らかにできればいいなと思います。どうぞ宜しくお願いします。

山本 信太郎 会員

このたび入会させて頂きました山本信太郎です。第 42 回大学史研究セミナーでのシンポジウム「大学と宗教」にお招き頂きありがとうございます。イングランド宗教改革が研究テーマで、近年は同時期にイングランドに統合されたウェールズへの宗教改革の影響について勉強していますが、これまで宗教改革における大学の役割の重要性については意識していたものの、このシンポにお誘い頂くまでは正面から勉強したことがありませんでした。勉強していく中で、例えばウェールズにおける宗教改革の展開とオックスブリッジの特定のカレッジの関わりについてなどは大変面白く、今後の研究テーマの一つにしたいと考え、この研究会にも参加させて頂きました。色々ご教示下さい。

立教学院史資料センター

立教学院史資料センターは、立教史関係資料の収集・整理・保存、および立教史の研究をおこなっております。紀要『立教学院史研究』（2003 年創刊）は現在 17 号まで発行されており、全学共通科目「立教大学の歴史」では、立教創設から現在に至る歴史の理解を深める授業を提供しています。また、2024 年の 150 周年に向けて、150 年史の発行の準備も進めています。どうぞ、よろしく願いいたします。

<異動に伴う会員情報更新の届出をお願いいたします>

所属や住所等に変更のある会員は、事務局までご一報ください。ホームページ掲載の「事務局連絡先」フォーム、あるいは年会費払込票（郵便口座）の「通信欄」を利用することも可能です。また、今後は会員の皆様への連絡を、「通信」と併せてメールで配信していくことも検討しております。事務局へのご登録が旧アドレスのままの方や、メールアドレスの登録をされていない方はご連絡いただきますよう、ご協力をお願いいたします。

（会員情報担当：浅沼薫奈）

会員新刊ニュース

山本珠美『近代日本の大学拡張 「開かれた大学」 への挑戦』学文社、2020年12月

2020年度大学史研究セミナー報告

2020年12月6日（日）、オンラインによる研究セミナーが開催されました。開催にあたり、会員の皆様には多大なご協力を賜りましたこと、厚く御礼申し上げます。当日は、会員・非会員併せて34名の参加を得ました。

自由研究発表では、5名の会員が発表をされました。午前は坂本辰朗会員（創価大学）から「ジョンズ・ホプキンス大学における特別研究員制度成立のアメリカ合衆国大学史上の意義」、羽田貴史会員（広島大学）から「1951年大学管理法案は大学自治を侵害したのか ―イーゼルズ vs 南原の闘争―」、福石賢一会員（高知工科大学）から「『英国人名事典』に見る二十世紀前半のケンブリッジ大学工学専攻者たち」の発表がありました。午後は、佐藤寛也会員（東京大学大学院）による「東京大学の学園祭史」、福留東土会員（東京大学）による「市民の精神的自由における学問の自由の意味」の発表が行われました。全国各地からの多彩な発表に対して、質疑応答も活発に行われ、大変有意義なセミナーとなりました。

今回、研究発表をしなかった者が何を言うか、というご批判は尤もではありますが、会員諸氏のご研究に触れ、国内外の研究成果を踏まえた独創的な視点、対象を紐解く精緻な手法、歴史的転換点とその研究史上の位置づけ、大学が存立する社会との関係性を問う試みなど、多くのことに気づかされました。

最後に、第43回大学史研究セミナーは、本来であれば大東文化大学が会場となり開催予定でした。会場校での開催かオンライン開催か、ギリギリまで調整・ご対応いただいた浅沼薫奈会員のご協力が無ければ、今回のセミナーは開催できませんでした。多岐にわたるご尽力、本当にありがとうございました。

（セミナー担当：山本尚史）

セミナー参加記

佐藤 寛也（東京大学大学院）

第43回研究セミナーは、2020年12月6日（日）に開催されました。今回は新型コロナウイルスの感染拡大を受け、初めてオンラインでの開催（Zoom形式）となりました。シンポジウムを開催せず、自由研究発表のみ1日のスケジュールでした。

新会員である筆者にとっては、今回が初めて参加する研究セミナーでしたので、残念ながら以前のセミナーと比較して述べることはできないのですが、オンライン形式であっても一方通行の発表とはならず、実際に対面するのと遜色のない非常に闊達な議論が交わされていたことが印象的でした。先輩方のお話を伺うと、オンライン開催となって遠方から参集する必要がなくなったことで、例年よりも多くの方にご参加いただけたとのことでした。何もかもが例年と異なり、また新型コロナウイルス関連の対応で本務も例年以上のご多忙であろう中、セミナー開催の準備と当日の運営にあたられた事務局の皆様、心より感謝申し上げます。

そして、自由研究発表を担当された会員の方々（自身もそのひとりなのですが）にも、同じく感謝申し上げたいと思います。対象も多岐に亘る非常に興味深い発表ばかりで、自身の発表に向けた緊張がなければもっと落ち着いて聞けたのではないかと思うと、申し訳ない気持ちになります。

筆者自身の発表では、昨年度末に修士論文として書き上げたばかりの、東京大学の学園祭の歴史について報告させていただきました。質疑では、今後どのような新たな史料が活用でき得るのかというご指摘や、大学祭という言葉の起源、大学側の意思決定過程や学園紛争期の学生運動と学園祭との関係についてなど、今後の研究のヒントとなる多くのご示唆をいただくことができました。

冒頭に述べたとおり、オンライン開催の利点を活かした、とても有意義な場であったのですが、総会まで終わって Zoom ミーティングから「退出」したあと、一抹の寂しさを感じたことも、また事実です。きっと昨年度までのセミナーでは、休憩時間やセミナー前後を通じた会員同士の交流も大きな魅力のひとつだったのではないのでしょうか。新型コロナウイルスの感染拡大状況は全く予断を許しませんが、まだまだ右も左もわからない新入会員の身、先輩方と初めて直接お会いできる日を心待ちにしながら、筆を擱かせていただきます。

2020 年度総会報告

セミナー当日の 2020 年 12 月 6 日、以下の通り Zoom によるオンラインによって総会を開催しましたので報告します。

《報告事項》

1. 運営委員会・事務局活動報告

- ・第 42 回大学史研究セミナー… 2019 年 11 月 23・24 日、大阪府立大学中百舌鳥キャンパスにて、参加者 33 名。
- ・運営委員会兼事務局会議…… 2 回（5 月、10 月） いずれもオンライン開催。
- ・大学史研究通信…… 3 回発行（99 号、100 号、セミナー・総会号外）
- ・日本学術会議会員の任命について、声明発出・賛同したことが報告された。
 - ・声明：日本学術会議会員に、推薦者全員の任命を求めます。
2020 年 10 月 27 日 大学史研究会運営委員会
 - ・日本教育学会の緊急声明に賛同します。
 - ・人文・社会科学系学協会共同声明に賛同します。

2. 会員数報告（2020 年 11 月 30 日現在）

2020 年→会員数：121（機関会員 7 を含む）

昨年以降の増減：入会者 3（新入会機関 1 を含む） 退会者 0

（会計年度との違いがあるため、会計報告の会員数とは異なる場合がある）

《審議事項》

3. 運営委員の任期延長

現・運営委員会メンバーの任期をあと 1 年間延長し、来年の総会で新・運営委員を選出するという提案を了承した。来年度総会までの運営委員会は以下 5 名（敬称略）。

〔代表／事務局長〕深野政之（大阪府立大学）、浅沼薫奈（大東文化大学）、岡田大士（中央大学）、蝶慎一（広島大学）、船勢肇（長崎女子短期大学）
山崎慎一（桜美林大学）、山本尚史（筑紫女学園大学）

4. 次期運営委員の推薦委員会の委嘱

次期運営委員の推薦委員として、以下 7 名の会員（敬称略）を委嘱した。

岡田大士（中央大学）、木戸裕（元・国立国会図書館）、羽田貴史（広島大学・東北大学）、福留東土（東京大学）、深野政之（大阪府立大学）、山本尚史（筑紫女学園大学）、渡辺かよ子（愛知淑徳大学）

5. 紀要編集委員長および編集委員の交代

紀要 29 号の発刊をもって羽田編集委員長および岡田編集委員の退任、2 名の補充を行い、合わせて運営委員会が紀要編集委員長を指名したことを承認した。新・編集委員会は以下 5 名（敬称略）。

〔編集委員長〕福留東土（東京大学）、〔副委員長〕福石賢一（高知工科大学）
折田悦郎（九州大学名誉教授）、木戸裕（元・国立国会図書館）、熊澤恵里子（東京農業大学）

6. 監事の委嘱

会則第 20 条の規定により、以下 2 名の会員（敬称略）を監事に互選した。

五島敦子（南山大学）、吉野剛弘（埼玉学園大学）

7. 会則の一部変更

以下の通り会則の修正と附則の追加が承認された。

(1) 会計年度の修正

(現) 第 19 条：本会の会計年度を、4 月 1 日から翌年 3 月 31 日までとする。

(新) 第 19 条：本会の会計年度を、10 月 1 日から翌年 9 月 30 日までとする。

ただし、提案にあった第 19 条の 2（入会及び年会費の年度）は削除しました。

(2) 附則（運営委員会の任期延長）の追加

8. 決算報告および予算案（次項にて報告）

（運営委員会代表／事務局長 深野政之）

2020 年度会計報告

大学史研究会 2020 年度会計ならびに 2021 年度予算案につきまして、以下に概要をご報告します。

*** 2020 年度の収支報告**

【 収入 】

2019 年度会計からの繰越金は、4,971,771 円でした。2020 年度年会費につきましては 73 名の会員より納入いただき、年会費・入会金の納入総額は、524,000 円でした。年会費の納付率はおよそ 60%ですが、これは例年時期がずれて納付する会員の方々が一定数見られるためです。例えば、2019 年度の年会費支払い状況を見ますと 80%を超えており、多くの会員の皆様に適切に会費を納入して頂いていると言えるかと思えます。

年会費をお納め下さった会員各位におかれましては、この場を借りてお礼申し上げますとともに、今後も引き続き研究会の発展と円滑な運営のために、年会費納入に対するご理解ご協力をお願い申し上げます。

【 支出 】

2020 年度は新型コロナウイルス感染症の影響に伴い、各会議体がオンライン等で開催されたため、編集委員会会議費・交通費及び、事務局会議・交通費の支出はございませんでした。通信費は 182,800 円であり、これは「大学史研究通信」発行の印刷、会員への諸連絡の印刷物、あるいは

は、年会費納入依頼通知の印刷等に関わる経費も含んでいます。紀要「大学史研究」の出版費用は704,978円です。また、昨年度の総会決議を踏まえた上で、2,500,000円を特別会計に繰り入れており、次年度繰越金は、2,125,256円となっております。特別会計及び次年度への繰越金を除く総支出は949,045円、収支の差は、346,515円のマイナスとなりました。

「2020年度会計報告」に明記されているとおり、当該年度の会計は吉野剛弘会員に監査を依頼し、精細な監査の上会計の適正処理をご承認いただきました。

*** 2021年度の予算案**

大学史研究会では、次年度の予算案につきましては、事務局による基本案を総会に提示し、ここでの審議を経て、最終決定をいたしております。例年と同様、2021年度予算も上記の手順にしたがって予算案を決定しましたので、以下にご報告します。

【 収入案 】

収入は、年会費と紀要売上金の2つになります。とりわけ、本研究会の運営経費は、年会費の納入に大きく依存しております。

年会費につきましては、前年度並みの550,000円を収入予定額として設定いたしました。その他の収入については過去に倣う形とし、総収入額は2,695,286円、繰越金を除く総収入額は570,030円といたしました。

【 支出案 】

支出案は、新型コロナウイルス感染症の影響を受けた前年度ではなく、その以前の予算案で設定している支出項目と支出額を考慮しつつ算出いたしました。

『大学史研究』を発行する予定になっております。その発行経費（制作・印刷・発送費の総計）を700,000円計上しました。編集委員会会議費・交通費は100,000円、事務局会議・交通費は80,000円としました。その他の諸経費も、ほぼ例年通りの額を計上しております。消耗品費・手数料は10,000円、謝金は30,000円、通信印刷費は200,000円でこれはホームページの費用も含んでいます。予備費として1,575,286円を計上しております。2020年度から次年度への繰越金は2,125,256円、繰越金をのぞく総支出は1,120,000円を予定しております。繰越金及び予備費を除くと、549,970円の支出超過となっており、現状の予算規模のままでは将来的には特別会計予算を用いることになり、引き続き収入増加策を要する状況にあります。

以上、「2020年度会計報告」および「2021年度予算案」につきまして、ご質問ご提案等ございましたら、事務局までご連絡のほどよろしくお願い申し上げます。

（会計担当：山崎慎一）

大学史研究会 総会資料 (2020年12月6日)

大学史研究会 2020年度 会計報告
(自2019年10月1日～ 至2020年9月30日)

【一般会計】

収入の部

科目	2020年度予算	2020年度実績	予算-実績
前年度繰越金	4,971,771	4,971,771	0
年会費・入会金	550,000	524,000	△ 26,000
「大学史研究」売上金等	10,000	78,500	68,500
セミナー開催経費等戻し入れ	10,000	0	△ 10,000
利息	50	30	△ 20
計	5,541,821	5,574,301	32,480

支出の部

科目	2020年度予算	2020年度実績	予算-実績
紀要「大学史研究」関連費用	650,000	704,978	△ 54,978
編集委員会会議費・交通費	100,000	0	100,000
事務局会議・交通費	80,000	0	80,000
消耗品費・手数料	10,000	1,513	8,487
謝金(アルバイト)	30,000	0	30,000
通信印刷費	130,000	182,800	△ 52,800
名簿作成費	50,000	0	50,000
セミナー開催経費	0	59,754	△ 59,754
予備費	500,000	0	500,000
特別会計	2,500,000	2,500,000	0
繰越金	1,491,821	2,125,256	△ 633,435
計	5,541,821	5,574,301	600,955

特別会計及び次年度繰越金を除く 収入計 602,530
 支出計 949,045
 収入-支出 △ 346,515

【特別会計】

収入の部

科目	2020年度予算	2020年度実績	予算-実績
一般会計より繰入	2,500,000	2,500,000	0

支出の部

科目	2020年度予算	2020年度実績	予算-実績
次年度繰越金	2,500,000	2,500,000	0

上記のとおり、ご報告いたします。 事務局会計担当 山崎慎一

上記の会計報告について会計監査を実施した結果、領収書ならびに預金通帳等は、全て妥当かつ正確に処理されていることを認めましたのでご報告いたします。

監事



大学史研究会 総会資料 (2020年12月6日)

2021年度 予算案

【一般会計】

収入の部

収入の部			支出の部		
費目	前年度実績	予算	費目	前年度実績	予算
前年度繰越金	4,971,771	2,125,256	紀要「大学史研究」関連費用	704,978	700,000
年会費・入会金	524,000	550,000	編集委員会会議費・交通費	0	100,000
「大学史研究」売上金等	78,500	10,000	事務局会議・交通費	0	80,000
セミナー開催経費等戻し入れ	0	10,000	消耗品費・手数料	1,513	10,000
利息	30	30	謝金(アルバイト)	0	30,000
			通信印刷費	182,800	200,000
			セミナー開催経費	59,754	0
			予備費	0	1,575,286
			次年度繰越金	2,125,256	0
計	5,574,301	2,695,286	計	3,074,301	2,695,286

前年度繰越金を除く総収入(a) 570,030 予備費と次年度繰越金を除く総支出(b) 1,120,000
 (a)-(b) = △ 549,970

【特別会計】

収入の部

収入の部			支出の部		
費目	前年度実績	予算	費目	前年度実績	予算
前年度繰越金	2,500,000	0	次年度繰越金	2,500,000	0
計	2,500,000	0	計	2,500,000	0

上記のとおり、ご提案いたします。 大学史研究会事務局

『大学史研究』編集委員会からのお知らせ

<原稿募集>

編集委員会では『大学史研究』第30号の原稿を以下の日程で募集します。会員の皆さんの日頃の研究成果をぜひ投稿して下さい。多くの投稿をお待ちしています。

投稿申込期限：2021年3月31日

原稿締切：2021年6月30日

刊行予定：2021年11月

投稿募集カテゴリー：論文、研究ノート、史料紹介

投稿カテゴリーについては、申込時に執筆者の希望を添えてもらってもよいですし、特に指定されなくても構いません。最終的な掲載カテゴリーは編集委員会で判断します。

投稿申込先：toko@daigakushi.jp 《研究会HPの投稿申込フォームをご利用ください》
3月末までに投稿申込された方に詳しい投稿方法をお知らせします。

<編集委員会の編成について>

2020年12月の総会で、新たな編集委員会の編成が承認されました。編集委員会の編成は以下の通りとなりましたので、よろしくお願ひ致します。

編集委員長：福留 東土（東京大学）
編集副委員長：福石 賢一（高知工科大学）
編集委員：木戸 裕（元国立国会図書館）
折田 悦郎（九州大学名誉教授）
熊澤恵里子（東京農業大学）

<編集委員長就任に当たって>

羽田貴史前編集委員長の後を受けて、この度、編集委員長に就任しました。上記編集委員の皆様とともに『大学史研究』の編集を担当します。会員の皆さんの研究成果をできるだけ多く掲載できる誌面作りを目指したいと思います。

学術誌として何より重要な使命は定期的な刊行です。刊行をお引き受けいただいている東信堂の協力を得ながら、毎年、大学史セミナーの開催に合わせた刊行を目指したいと思います。

もうひとつ、重要なことは学術的に価値ある論考を多く掲載することです。本誌へ投稿された原稿は編集委員会の査読を経て掲載の可否を判断します。特に「論文」については、歴史研究としての実証性と論理的考察、課題設定の意義、先行研究の的確な把握、分かりやすい叙述など、論文審査に当たっての基本項目について学術論文としての水準を確保することが重要です。しかし同時に、本研究会の良さは、小規模でありながらも会員のバックグラウンドや研究関心の持ち方、研究アプローチが多彩な点にあると思っています。それらは、論文執筆のスタイルや研究の進展プロセスに反映されます。この特徴を活かせるよう、学術的水準を維持することに配慮しつつも、研究アプローチの多様さを汲み取ることでできる評価の方法を工夫したいと思います。その意味で、査読を通した論文の質の向上、および執筆者と編集委員会の対話を重視したいと考えます。それによって会員の研究成果をできるだけ多く掲載できるように努めます。

そのためのひとつの方途として、多彩な誌面作りを心掛けたいと思います。ここ数年の『大学史研究』には、論文、研究ノート、特集、シンポジウム報告、史料紹介、書評など、すでに多くのタイプの学術成果が掲載されています。例えば、「研究ノート」には、惜しくも「論

文」に至らない研究業績を掲載することもあります。国内外の研究動向や特定トピックの研究業績群をフォローするような論考も投稿可能です。特定の史料（群）の紹介や解題はぜひ「史料紹介」に投稿して下さい。これらの様々なタイプの論考を掲載していくことも、研究の基盤を形成する上で重要だと思います。場合によっては、より多様なカテゴリ設定があってもいいかもしれません。このあたりについては今後、編集委員会で議論していきたいと思いますが、会員の皆さんからの建設的なご提案をぜひお寄せ下さい。

会員の皆さんの投稿意欲が湧く、かつ、小規模研究会の良さを活かした会員間の研究関心の対話と交流を促進できる紀要のあり方を目指したいと思います。それによって、大学史研究の活性化に寄与することが編集委員会の願いです。会員の皆さんからの多くの投稿とご提案をお待ちしています。

(編集委員長：福留 東土)

運営委員会からのお知らせ

本通信では会員の研究活動の紹介を心がけております。新刊を発行されたご本人、あるいは会員が新刊を発行されたという情報を得られた方は、事務局(jshshe@daigakushi.jp)までお知らせください。

(運営委員会代表／事務局長：深野政之)

編集後記

大学入試共通テストが実施されました。共通テストに限らず、受験で大学を訪れる高校生・浪人生たちの必死さを目の前にすると、試験問題をクリアする学力は「勿論大事ですよ」、けれども「もっと楽しい時間があるよ!」「大学って楽しいんだよ～」などと心の中で応援してしまいます。私個人としては、大学という場所の面白さ、人の豊かさ、時間の豊饒さ、学び(遊び?)の広がりには桁外れ。だから大学史は面白い、と思います。

『大学史研究通信』第101号の編集は事務局・山本尚史が担当いたしました。

連絡先：hi-yamamoto@chikushi-u.ac.jp

『大学史研究通信』第102号は、2021年5月発行予定です。

大学史研究会事務局

〈事務局連絡先〉

〒591-8531 大阪府堺市中区学園町1-1

大阪府立大学高等教育推進機構 深野政之 気付 大学史研究会

Tel. & Fax.: 072-254-9548 E-mail: fukano@daigakushi.jp

ホームページ: <http://daigakushi.jp/>

事務局へのお問い合わせは、なるべく下記代表Eメールアドレスまでお願い致します

E-mail: jshshe@daigakushi.jp

研究会運営委員／事務局員一覧 (五十音順)

浅沼 薫奈 (大東文化大学)	岡田 大士 (中央大学)
蝶 慎一 (広島大学)	深野 政之 (大阪府立大学)
船勢 肇 (長崎女子短期大学)	山崎 慎一 (桜美林大学)
山本 尚史 (筑紫女学園大学)	